



THE BAJ NEWS

日本ボストン会 | Boston Association of Japan | 会報 : 59号

レクチャーシリーズ

Youtube動画配信

レクチャーシリーズのYoutube動画配信をいたします。右のボタンをクリックしてご覧ください。

第3回 三好 彰

テーマ：ボストン日本人学生会を飾る人々



第4回 八代 江津子

テーマ：ナンタケットバスケット 歴史と伝統



第5回 柳沢幸雄

テーマ：77年周期の日本の近現代



尚、このYoutube動画は、日本ボストン会会員並びにレクチャー参加者のみが閲覧できるように限定公開になっています。

URLの拡散並びに部外者への提供は控えて頂けますよう、よろしくお願いたします。

ご質問等がありましたら、右のボタンからご連絡ください。



今後のイベント



日本ボストン会HP

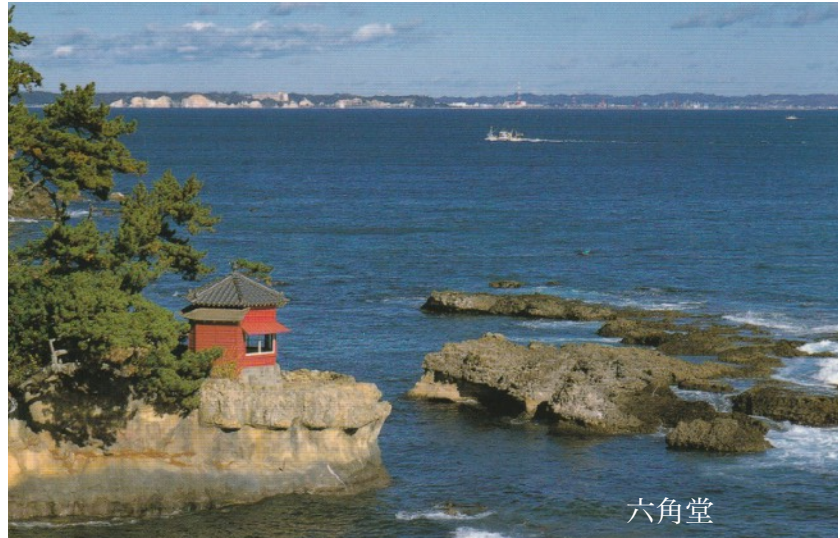


<http://www.j-boston.org/>

日本ボストン会事務局



〒169-0051 東京都新宿区西早稲
2-14-1 (株)日本レーザー内



六角堂

退任のご挨拶

土居 陽夫

早いもので会長に就任して2年が経ちました。前任の近藤会長の後半からコロナが流行り出し、行動の自粛が求められました。5波が落ち着いた昨年11月に何とかNECの三田クラブに集まって総会を開催できましたが、直ぐに6波の流行があり、少し収まりきってとと思っていると6波を超える大きさで7波が襲ってきました。結局2年間、昨年の総会以外は相対での活動は出来ずに終わってしまいました。

その間、世の中もリモートワークが奨励され会議もZoomで行われる事が多くなりました。当会でも幹事会はZoomで行いました。これはこれで効率的ですし、ボストン在住の幹事も参加でき合理的でした。また、岩田幹事夫妻が主催してくれましたZoomを利用したレクチャーシリーズも、9月で5回目の開催となり、手慣れたものになってきました。とはいえ顔を見れないのは、特にシニアなメンバーとしては寂しいものです。

今年に入り1月に篠崎元幹事、6月に吉野静子元副会長がと、コアメンバーが相次いでお亡くなりになりました。また、ワーキンググループで一番の歴史を誇る「歴史と美術の会」も幹事団の高齢を理由に、残念ながら閉会となりました。会のメンバーの高齢化が進み、幹事会の若返りが急務となり、今春から幹事会メンバーも若手中心に刷新しました。次期会長は若手の細田副会長が就任される予定となっており、若い知恵と考えで、更に会を引っ張ってくれるものと期待しています。

9月初めに熊野古道を歩いてきました。コロナ前には外国人で溢れていた熊野古道も人がおらず、宿に泊まれば貸切状態で閑散としていました。世の中は行動制限をせずヴィズ・コロナでの生活となってきています。当会も新しい環境を取り込み、新たな活動を増やししながら旧来の活動も復活させて行きたいと思っています。11月の次回総会は相対とZoomによるハイブリッドでの開催を予定しています。

消化不良気味の2年間ではありましたが、若手へのバトンタッチができ、インターネットの環境を使った活動ができたのは良かったと思っています。

今年の2月にロシアが突然ウクライナに侵攻し、暴挙が始まりました。早期に正しい形で戦争が終わるのを切望して止みません。

2年間、未熟者をお支え頂き、重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。

[美術と歴史の会] 閉会にあたって

酒井一郎

1992年に日本ボストン会が創設されて間もなく、会員間の親睦を深めるために幾つかの同好会が発足する事になった。ボランティアで何人かがそれぞれ名の中で、妻の典子が大学で美術史を専攻していたので美術の会の担当を申し出た。妻が1994年会報第37号に、20世紀のアメリカを代表する画家の1人O'Keeffe展が横浜美術館で開催された事で、O'Keeffeと彼女の絵を題材としたエッセイを皮切りにスタートした。其の後「旅風景とその地で出会った絵」をテーマにして、19年間2013年まで続く事になる。

途中でこのままでは、目的の親睦が深められないと思っていたところ、藤盛さんから名古屋で名古屋ボストン美術館の開館を知らされ、美術館が入居する金山南ビルは藤盛さんが勤務する清水建設が建築したもので、その時の担当窓口をしていた名古屋支店開発部の内藤克己部長を紹介すると言ってくれた。有難く事前調査を兼ね内藤部長との打ち合わせのため名古屋に赴く。内藤部長と共に部長の知己、牛毛神社の故久米生光宮司とも会う。(久米さんは大のクルージング、音楽好きで、ボストン会入会后クルーズを担当)、1994年第1回名古屋ボストン美術館訪問で、美術鑑賞前に館長、学芸員よりレクチャーをうける。夜は“音楽とドリンクの夕べ”で名古屋在住の内藤さん、久米さんから歓待される。

この様に名古屋ボストン美術館訪問を続けて4回“まで実施。2007年には”歴史を飲もう会”と合同で湖都大津の寺社巡り、石山寺、比叡山延暦寺に参拝した翌日、円城寺（三井寺）の子院、法明院で朝早く駆けつけられた山口先生ともお会いし、住職のお話と共に先生より日本の美術に貢献したフェノロサ、ビゲロの話を聴き、ロンドンで亡くなった彼らのお墓がここに祀られている事を知る。其の後歴史を飲もう会とは“美術と歴史の会”と1本化し、故篠崎、三好、酒井の3人でイベントを企画し実行する事となる。2014.5.20には、東京駅前の丸ビルよりチャーターバスで茨城県五浦に向かう。山口先生旧知の茨城大小泉教授の案内で岡倉天心旧邸、邸内の居宅、六角堂、庭園の見学説明を受けた後、天心記念五浦美術館を鑑賞する。帰途のバス内では埼玉大

名誉教授の山口先生持参したカセットテープの日本美術院院歌を聴きながら東京に向かった。

奈良訪問では興福寺国宝館で出会った阿修羅像の少年風、憂いある表情に見とれた。

京都の旅は三好幹事が事前の準備を含め、多大な活躍により、スムーズに修学院離宮、桂離宮など入場、見学が

できた。奈良、京都では地元のボストン会員ジャメンツ夫妻、吉田礼子さんに大変お世話になりました。

この様に山口先生を始めとする地元会員の皆さまにも、ご指導頂きながら、2022年までの約20年余皆さまと共に親睦を計り楽しんできました。2022年5月に美術と歴史の会“クレマチの丘”、ビュッフェ美術館“を企画しましたが、コロナ感染の蔓延で止む無く中止。幹事の高齢化に伴い“美術と歴史の会”そのものも閉会とする事にしました。

今後“美術と歴史”に関心をもつ若い会員の方が出て来て継続される事を期待いたします。



1998年 岡倉天心・六角堂



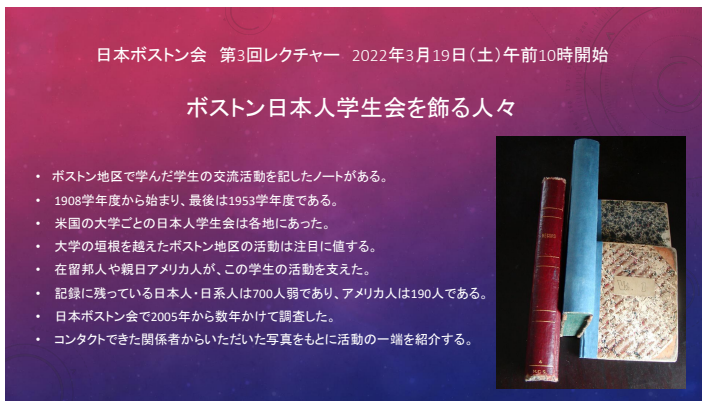
WG活動報告

レクチャーシリーズ

岩田 衛・加奈子

レクチャーシリーズ第3回は3月19日に行われました。講師は日本ボストン会の会員である三好彰さん、題目は「ボストン日本人学生会を飾る人々」でした。

1908学年度から始まり1953学年度までのボストン地区で学んだ学生の交流活動を、日本ボストン会として2005年から数年かけて調査したものの紹介でした。



長期にわたる大変貴重な資料収集、その翻刻、資料の分析等のご紹介、素晴らしい先人の方々のボストンでの軌跡に触れることができ、明治から戦後にかけての日本とボストンの関わりがよく分かりました。主題に関する史料を広く、深く研究し、関係者からも種々聴取されたご

努力が伝わってきました。人脈、人間関係の重要性をあらためて認識したところです。

次のレクチャーシリーズ第4回は6月18日に行われました。講師は日本ナンタケットバスケット協会会長、日本ボストン会の幹事でもある八代江津子さん、題目は「ナンタケットバスケット歴史と伝統」でした。

ナンタケットバスケットはかつて捕鯨で栄えたアメリカ東部の小さな島、ナンタケット島発祥です。八代さんは1994年にナンタケット島を訪れバスケットに出会い、その後研鑽を深め、現在はナンタケットバスケット制作者として名実共に認められています。

ナンタケットバスケットは米欧の上流社会で珍重される手芸品です。講演を通してナンタケットバスケットの作られた背景、歴史がよく分かり、捕鯨と関りがあったこと、島に日本由来のアジサイが咲いていること等、お話に引き込まれました。

上記の感想は講演後の皆様からのアンケートを踏まえてまとめたものです。

6月29日に帝国ホテルプラザ3階にてナンタケットバスケット専門店、GrayMist をオープン致しました。

帝国ホテルプラザは2024年3月を持って改装となることから、短期ではありますが、プラザ店では八代特別バスケット制作クラス、プレミアムクラス（バスケットを3ヶ月で完成）、レギュラークラス（3ヶ月10回いつでも通って頂ける）等の教室、材料販売、バスケット展示、などの活動をしてまいります。お時間がございましたら是非ナンタケットバスケットをご覧ください。



WG活動予定

総会

別府 雅道

日時：11月14日（月） 午後6時半から（午後6時会場）

場所：NEC芝倶楽部（酒井さんへ依頼済）

形式：ハイブリッド（ZOOMおよび対面）

詳細は追って事務局からご案内。

レクチャーシリーズ第6回

岩田 衛・加奈子

第6回は12月17日に山崎さんのZoomでの講演を予定しています。詳細は今後のご案内をお待ちください。

伝統芸能の会

滝沢 典之

新型コロナ下で中断している「歌舞伎観劇会」について再開の時期を模索中です。

国立劇場は、令和5年（2023年）10月末に、建て替え工事のために一旦閉場になります。

再開場は令和11年（2029年）秋の予定です。

令和4年（2022年）9月から「初代国立劇場さよなら公演」を開始し、様々な記念事業も行うとの発表がありました。

伝統芸能の会といたしましては令和4年12月～令和5年3月の期間に「歌舞伎観劇会」を計画したいと考えています。

詳細は別途、連絡を差し上げる予定です。

その際は、多くの皆様のご参加をどうぞよろしく願いいたします。

読売新聞記事（国立劇場立て替え案内）ご参考まで

<https://tsumugu.yomiuri.co.jp/acts/nationalteatre-saiseibi/>

ハイキングと紅葉狩りの会

中埜 岩男

ハイキングと紅葉狩りの会としては、オミクロン株の蔓延と終息が見通せないので様子見です。可能ならば、5～6月ごろに深大寺の参拝と散策を検討したいと思っています。

小江戸佐原の舟めぐりとあやめ祭り（嫁入り舟と郷土芸能）と、時間があれば伊能忠敬記念館と酒蔵見学なども訪れたいと思います。

お花見の会

生田 英機、小野田 勝洋

コロナの感染者数はまだ高止まりを続けています。大事をとって今年のお花見は中止し、来年へ順延としたいと思います。来年が穏やかな年でありますように。

音楽の会

関 直彦・尚子

パンデミック騒ぎが間もなく収束することを期待して、早い時期にホームコンサートを開催したいと思っています。

担当幹事の高齢化に伴い、これが当幹事による最後のホームコンサートになるでしょう。今後の音楽の会の運営については、若尾美絵さんに委ねることになります。帆期待ください。

若尾美絵

今後の音楽の会は、興味深いコンサートや、音楽芸術イベントや講座案内など、情報提供を中心にしたいと、細田さんと話しています。将来的には状況を見ながら、希望者と一緒にコンサート鑑賞に出かけて感想を話し合う会や、小さなサロンのコンサートを開催するなども考えています。

2022年11月、アンドリス・ネルソンス指揮ボストン響が5年ぶりに来日公演を行います。

2020年に予定していたアジアツアーが、コロナの影響で、出発直前にキャンセルとなったこともあり、満を持しての日本公演です。

公演日程、プログラムをまとめてみました。

その他、ボストン響団員によるマスタークラスや無料の公開リハーサルもあります

特設ウェブサイト

<https://www.suntory.co.jp/suntoryhall/feature/bs02022/>

プログラムA

マーラー：交響曲第6番

プログラムB

ショウ：Punctum

モーツァルト：交響曲第40番

シュトラウス：アルプス交響曲

プログラムC 内田光子 (Pf)

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番

ショスタコーヴィチ：交響曲第5番

2022年

11月9日 19:00 横浜、みなとみらいホール A

11月10日 19:00 京都、京都コンサートホール B

11月11日 19:00 大阪、フェスティバルホール C

11月13日 16:00 東京、サントリーホール A

11月14日 19:00 東京、サントリーホール C

11月15日 19:00 東京、サントリーホール B

(その他) サントリーホール

11月12日 BSO団員によるマスタークラス (ブルーローズ)

11月13日 公開リハーサル

11月14日 青少年プログラム ※一般非公開

プログラム委員会

細田満和子、北原秀治

当委員会では、岩田委員を中心に企画・運営をしていただいているレクチャーシリーズ、八代委員を中心としたボストン商工会 (JBBB) との共催の映画祭 (12月に実施予定) を、本年度の活動の柱にしています。

日本ボストン会の活動を広く知って頂き、会員を獲得することが、本委員会に期待されているところと認識しております。コロナ状況下でなかなか対面のプログラムもままならず、ボストンとの交流もオンラインに限られることも多い状況ですが、日本における会員の皆様とボストンとの交流を促進するような企画を今後も考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ゴルフの会

近藤 宣之

コロナ禍様子見です。開催できるようになれば、あらためてご案内します。

シニア会

藤盛 紀明

コロナ禍で延び延びになっていた第1回会合を下記要領で開催予定ですが、最終決定は10月に入ってからと考えています。

会発足の決定後、篠崎史郎さん、吉野静子さんが亡くなりました。今回の初会合は「お二人を偲ぶ会」兼「シニア会発足の会」として、篠崎和子さん、吉野耕一さんもお出席頂いて開催します。

日時：2022年11月5日（土） 12：00～

場所：帝国ホテル地下1階「東京三田倶楽部」（貸し切り）

参加費：6,000円～7,000円

世話役：日本ボストン会シニア会 総務担当 鶴 正登

ボストンと私

若尾 圭良

16年前、ボストンで生まれた私は、音楽家の父の影響を大きく受けて、クラシック音楽を軸とした欧米文化の中で育ちました。家族は皆、日本人ですし、ボストン日本語学校、東京の小学校などで日本語を習い、毎年数回の日本滞在を繰り返してはきましたが、「故郷はどこ？」と聞かれば、迷う事なく「ボストンです。」と、答えます。

3才の時、年上の友達の弾くヴァイオリンに憧れて、レッスンに通い始めました。思い返してみると、最初から、間違わずに上手に弾くことや、難しい曲に挑戦することなど全く求められていませんでした。形はどうしても、ヴァイオリンを弾くことで、自分をリリースしてオープンになる感覚と、その楽しさを知ること。これがいちばん大切だと、先生、両親、周りの方達を始め、ボストンの文化と環境から自然に感じ取っていきました。

少しずつ曲が弾けるようになった頃、4才半で日本ボストン会の音楽の会、6才の時には、ボストン日本人会の新年会、11才でTEDxボストンに出演、他にも様々なチャリティー、ボランティアコンサートなど、音楽教室の発表会の小さな枠から飛び出した場所で演奏をさせて頂きました。様々な場所や環境の下、新しく出会う人々の前で演奏することは、その都度がチャレンジでしたが、大きな自信に繋がりました。

観客から温かく見守られて、拍手喝采を受ける嬉しさは、子供心にしっかり根付き、舞台上で演奏することは勿論、合間にマイクを持って話したり、お客様とコミュニケーションすることも大好きになりました。

現在は、高校に通いながら、少しずつコンサート活動を始めており、いつか音楽で立ちすべく奮闘中です。ボストンには、子供の頃から変わらず応援し、コンサートに駆けつけてくれる人達、お顔が一人一人思い浮かぶほどに、長くサポートして下さる方達が沢山います。

楽しくて得意なことを極め、そこから世界を広げていく生き方を、ボストンのコミュニティが受け入れ、後押ししてくれていると感じるのです。



ニューイングランド音楽院にて仲間たちと。左右から3番目、真ん中が私です

ここで生まれ育ち、音楽を学んだことは間違いなく私のアイデンティティとなりました。これからもボストン出身、ボストンベースの日本人ヴァイオリニストとして、広く活躍していけたらと思っています。

2022年12月2日京都、12月6日東京でリサイタルをします。お時間がありましたらお越し下さい。

メニューイン国際コンクールジュニア部門優勝記念
前芸術監督ゴードン・バック氏を迎えて

ヴァイオリンリサイタル 東京公演

Keila Wakao Violin Recital with Gordon Back



若尾圭良

プログラム:「F.A.E.ソナタ」よりスケルツォ ハ短調
フランク:ヴァイオリンソナタ 長調
イザイ:無伴奏ヴァイオリンソナタ 第5番 二重調 作品27-3「ハード」
ショスタコーフ:前曲 作品25
サンサーンス:序奏とロンドネガブリョー 短調 作品28
やむを得ない事情により、曲目等が変更となる場合があります。

若尾圭良 ヴァイオリン Keila Wakao, Violin
ゴードン・バック ピアノ Gordon Back, Piano



2022年 12月6日(火) 19:00 開演 18:30 開場
銀座 王子ホール 6,000円(全自由席)
未就学児入場不可

チケットのお求めは
・王子ホールチケットセンター <https://www.ojihall.jp/form/ticket.html>
03-3567-9990 受付 10:00 - 18:00 (土・日・祝日 休業)
・チケットぴあ <http://pia.jp> (Pコード:224970)

主催: お問い合わせ
日本アメリカ交流コンサート
wkboston@live.jp
後援: 株式会社ドルチェ楽器

若尾圭良ヴァイオリンリサイタル東京公演
2022年12月2日(金)19時開演 青山音楽記念館

お問い合わせ先
日本アメリカ交流コンサート
wkboston@live.jp
後援: 株式会社ドルチェ楽器

お買い求め頂いたチケットのキャンセル、変更はいたしかねます。

ボストンだより - 10 September 15, 2022

八代 江津子

通常ボストンの夏という、数日間の真夏日を耐えれば夜は涼しくドライな日々。ところがここ1-2年、ことに今年は大きな変化を感じています。7月、8月で冷房を切ったことは数日。ほぼ毎日稼働のエアコン、壊れたときの恐怖を日々の暑さを感じます。

肌で感じる気候変化は未来への不安を感じています。

ようやく9月7日に米国-日本双方の行き来に際してのPCR検査の廃止が発表されました。パンデミック下での行き来に際してはPCRにて往復合計5万円程の検査費用が加算され、時間や複雑な書類システム+経費としてこの費用は辛いところでした。廃止されたことによる影響は色々

あると思いますが、行き来に関しては自由度が高まりました。今後の課題と考えられるのは入国に際してのビザの廃止です。現在、市民権を取得し日本国籍を諦めた方々のご両親の介護などにもビザの発行なくしては帰国できない状況です。(9月15日現在) また永住権を持つ日本人の米国人配偶者であってもビザが必要となり、そのビザ発行の厳しさに入国を諦める方々も多く、ツアー観光が許可されているにも関わらずその配偶者へのビザ発行の厳しさに不平が出ている状況です。パンデミックの状況、またワクチン接種率の伸び悩みなど状況に応じて対応しなくてはならない政府も苦悩の日々と感じます。

また円安も進むと同時にボストンでは物価の上昇です。一例ですが、ラーメン、17ドルそれにタックスをプラスするとなると20ドル近く。チップを含めると22ドルということになります。それを日本円で換算すれば、3000円を超える金額。日本円に換算してその高額ぶりを興味本位で喜んでいましたが流石に最近是不愉快になります。家の相場も高くなりました。最近落ち着きを見せてはいますが、こちらの物価を考えま

本年8月18日に日本伝統文化を伝えるミッションを掲げ、Crane & Turtleをオープンさせました。

米国伝統文化であるナンタケットバスケットを日本に伝える仕事に30年近く関わる事から、日本伝統の素晴らしさを海外に伝える意義を改めて感じております。ワークショップ等の実体験や情報伝達、コミュニケーションの実現に、実店舗での活動へとふみきました。ユニオンスクエア、Bow Marketという学生街にて、公共交通機関でのコミュニケーションが可能な場所での展開です。新たな日本文化伝達や、交流ツールとして多くの方に利用して頂けるようにと考えております。



すと日本の物価、ことに給与に関してはその低さを憂いでいます。日本からの留学生が減少していくことによる世界の中の日本はどうなっていくのでしょうか。多くの日本の若い方々に海外で



7月28日に行われたNantucket Basket Bubbly (ナンタケットバスケット美術館ファンドレイズパーティ)

の生活体験を通してグローバルな視点、視野を養ってほしいと思うのですが、むずかしい状況ではないかと感じています。ボストンは日本からの学生留学が多く、日本の力を強く感じていた過去があり寂しい限りです。

不安ばかりを書き連ねてしまいましたが、ボストンの街は活気を取り戻しまるでパンデミックが存在しなかったかのような明るさです。友人たちはヨーロッパに、客船に、と旅にでかけその報告を聞く事が多くなりました。レストランでは皆が集い、通常運転です。やっとこの日々が戻ってきたのだと感慨深い光景です。残念ながら戻らないものもありますが、このパンデミック、そして経済下をプラスに変えていかれるように私自身も考えていきたいと思えます。



ナンタケット島 - あじさいの島